

れき みん

となん歴史民だより vol.65

Morioka tonan history and folklore museum

令和3年3月31日発行

発行 盛岡市都南歴史民俗資料館 盛岡市湯沢 1-1-38 Tel/Fax 019-638-7228



錦絵 小松屋宗七 / 毛剃九右衛門 / 博多小女郎
歌川国芳 <1798~1861>

3枚続。歌舞伎や浄瑠璃の「博多小女郎浪枕（毛剃）」中の一場面を描いたもの。作者の国芳は、画号を一勇齋國芳という。初代豊国<1769~1825>に師事、武者絵を得意とし絶大な人気を誇った。

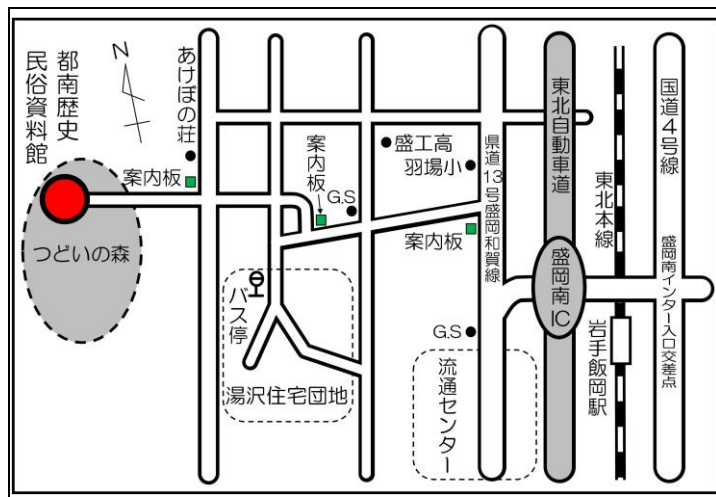
是非ご来館ください。お待ちしております。

— もくじ —

- 都南歴史民俗資料館をご活用ください
- 資料は語る(65)
- 盛岡市所在
指定・登録文化財紹介(65)
- となんの先人⑧

MAP☆ACCESS

★「都南つどいの森」の案内板を目印にお越しください★



○利用案内

開館時間

午前9時から
午後4時まで

入館料

無料

休館日

月曜日
(休日に当たるときは、直近の平日)、
年末年始

都南歴史民俗資料館をご活用ください

見学

【学校で】 学校見学を受け入れています。令和2年度は小学校9校 585名の見学がありました。

【ご家族・ご友人と】 お子さまや若い方にとって珍しく、ご年配の方にとって懐かしい物が多数展示されていますので、お話が弾むお客様が多くいらっしゃいます。

出前授業

職員が学校にお伺いし、昔の暮らしについてお話しします。黒電話や行灯など昔の道具を持参しますので、より身近に感じていただけます。



小学校の見学風景(平成9年)

貸し出し

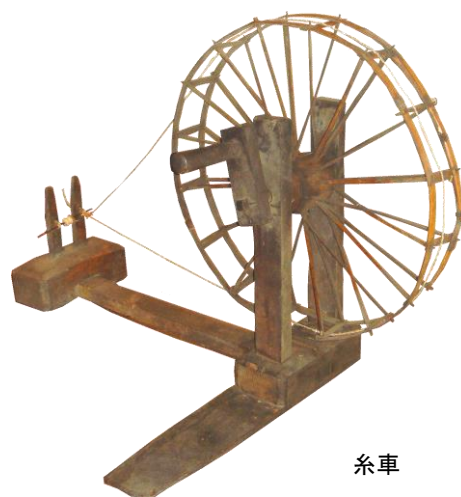
対象：盛岡市内の小学校・中学校，地区子ども会，町内会，老人クラブ，その他教育福祉施設等で郷土の資料を取り入れた学習や活動を実施しようとする団体等

貸出資料：農耕具，生活用具，衣類・履き物類などのうち当館が許可する資料（※資料の状態等によっては貸し出しできない場合もございます。ご了承ください）

貸し出しの条件：貸し出し期限，運搬方法・取扱い方法の遵守

お申し込み方法：

- ①事前に資料館へお問い合わせください。ご希望の資料をお伺いし貸し出しの可否を回答いたします。
- ②申請書をご提出ください。
- ③後日ご来館ください。取扱い方法や運搬時の注意点をお伝えしますので，少々お時間を頂戴します。



糸車

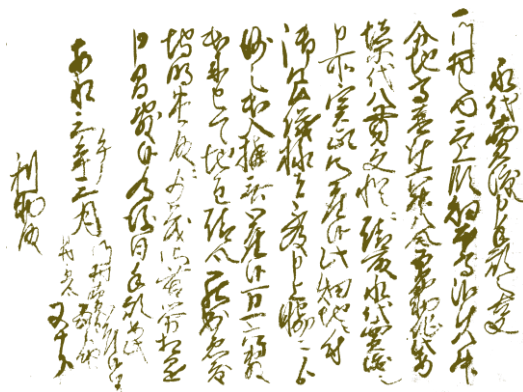
調査する

学校の自由研究はもちろん，生涯学習にもご利用いただけます。

【図書貸し出し】 資料館の事務室に配架されている図書はどなたでも閲覧できます。ご希望の方は職員にお声がけください。

貸し出しも行っています。一般の方は1か月間，となん・かけはしの会会員は2か月間が貸し出し期限です。

【古文書等の熟覧】 古文書類を閲覧することができます。必ず事前にお問い合わせください。取り扱い方法の遵守をお願いします。どのような資料があるか，内容についてはお問い合わせください。



「永代売渡手形之事」(安政3年)

参加する

都南や周辺地域の歴史文化に興味がある方はもちろん、都南に限らず歴史全般が好きな方はぜひ「となん・かけはしの会」にご参加ください。主な活動は以下のとおりです。

【茶話会】隔月開催の講話です。お招きした講師や会員・職員のお話を聴講します。

【史跡・文化財巡り】年1回開催です。バスで史跡を巡ります。

【歴史探訪ウォーキング】盛岡市内の史跡や社寺を徒歩で巡ります。

活動を通して学習や会員同士での交流が出来ます。年会費は1,000円です。会の活動や雰囲気を知りたい方は、茶話会を体験受講することもできますので、お気軽に事務局（都南歴史民俗資料館職員）までお問い合わせください。



歴史探訪ウォーキング(奕葉山久昌寺見学)

散策する・楽しむ

都南歴史民俗資料館は「都南つどいの森」内にあります。周辺は自然が豊かで、例えば4月頃にはカタクリやキクザキイチゲなど季節の花を楽しむことが出来ます。

都南つどいの森にはキャンプ場、多目的広場、宿泊施設などがあり、キャンプ、バーベキュー、スポーツや体験学習が出来ます。レストハウスではラーメンやカレー、定食などお食事を提供していますので、1日中楽しむことができます。

つどいの森にお越しの際は、ぜひ都南歴史民俗資料館もあわせてご見学ください。資料館周辺の散策もおすすめてです。

※ 都南歴史民俗資料館に関するお問い合わせは当資料館（019-638-7228）、それ以外の都南つどいの森内施設に関するお問い合わせは（公財）盛岡市都南自治振興公社様（019-638-2207）をお願いいたします



キクザキイチゲ(資料館周辺で撮影)

お待ちしております



ニホンカモシカの剥製
(当館蔵)

ニホンカモシカは偶蹄目ウシ科。国の特別天然記念物に指定されている。

この個体は昭和57年（1982）1月31日朝、大ヶ生の民家付近で倒れているのを住民が発見したが、夕方に衰弱死した。外傷もなく状態も良好なため剥製として保存することになった。年齢は1歳で、性別は雄である。

参考：広報となん 昭和58年1月1日号



【氷冷蔵庫】

高さ72cm, 横幅44cm程の木製の重厚な箱である。扉を開けると内側全体にブリキが張られている。タグには「田山式冷蔵函」と鋳出されている。

これは、主に大正から昭和初期にかけて使用されていた氷冷蔵庫である。中は2段に分かれており、下段に食物、上段に氷を入れ、冷気で食べ物を冷やす仕組みだ。主に夏の間に使用された。

氷は、涼しい朝のうちに氷屋がリヤカーや自転車に乗せて各家を回り、鋸で切り分けて販売していた。

氷冷蔵庫が無い家庭では、たらいに井戸水を張り食物を冷やす方法もとられた。昭和30年代後半から電気冷蔵庫が普及しはじめ、氷冷蔵庫は姿を消した。

参考文献：澤宮優ほか『イラストで見る 昭和の消えた仕事図鑑』原書房、2016年
早川典子監修『昭和のくらしがわかる事典』PHP 研究所、2010

県指定有形文化財 工芸品

なまずおのかぶと
鯰尾兜

所蔵ならびに写真提供：岩手県立博物館

もとは豊臣秀吉の重臣蒲生氏郷がもうじきと所用の品でしたが、氏郷の養妹おたけ於武の方（源秀院）が盛岡藩2代藩主南部利直としなおに嫁いだ際に引出物として持参したと伝えられます。

戦国時代の変わり兜の一つで、本来このような形態は燕尾形兜などと呼ばれますが、南部家では代々「鯰尾の兜」と伝えられてきました。

鍔しころと眉庇まびさしは鉄ですが、ピンと張った尾の部分には革が用いられており、見た目よりも軽量です。総高は約65cm、黒漆塗仕上げで均整のとれた造形は武士の威厳と緊張感を漂わせています。

参考文献：盛岡市教育委員会『もりおかの文化財』（2008）
岩手県立博物館デジタルアーカイブ

となんの先人⑧ 藤川 清助 [後]

さらに、清助が県会議員を辞任した翌月にあたる大正四年（一九一五）十月九日には、原敬と政友会所属の衆議院議員らを見前の自宅に迎え入れている（『原敬日記』）。当時の原は立憲政友会総裁の立場にあり、多忙をきわめる中での訪問だった。

見前村長に当選した頃、清助は自宅に離れ一棟を新築し、それに付随して介寿荘（一山荘）の造りを取り入れたといわれる庭園を造りあげた。モミジなどを植え、梁川村から運んだ巨岩を配置した見事な庭園は、原を迎えるために整備されたという。しかし大正十年（一九二一）十一月四日、原は東京駅で暗殺され、この景色を目にすることはなかった。

大正十三年（一九二四）に行われた第十五回衆議院議員総選挙において、清助は旧岩手二区（岩手・紫波選挙区）から出馬し当選、中央政界へと進出した。なお、この選挙で政友会総裁高橋是清は前回原が当選した旧岩手一区（盛岡選挙区）から立候補し辛くも当選している。

清助は政友会岩手支部幹事として地方自治・産業発展、教育振興などに奔走した。彼のメモには「国会議員とは、精神・肉体共に重労働なる職業なり」と記されていたという。

昭和十四年（一九三九）、菖蒲田は献穀田に選定された。献穀田とは、新嘗祭において皇室及び伊勢神宮へ献上するための穀物を育成する田であり、毎年各県で順に受け持っていた。当時の県知事雪沢千代治の主催により、地方農業発展に貢献した者として五穀のうち米は見前村藤川清助に決定した。田の一面をしめ縄で囲い、神官が御祓いをして田植の式を行なったといい、長男夫婦が祭事を執り行っている写真などが残されている。

昭和十七年（一九四二）七月十一日、教え七十五歳で逝去した。

参考文献

都南村誌編集委員会『都南村誌』都南村、一九七四
吉田長一郎「岩手の農業をつくる人々六十 藤川清助（栄助）の巻（下）」
『岩手の農協』第三十六巻第五号、岩手県農業協同組合中央会、一九八九年
小沢一昭「原敬と藤川清助」『となん歴史だより』五十二号、平成二十九年
岩手日報編集局『庭園物語』岩手日報社、一九五四年